

基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み	行動計画
く や っ ぱ り、 住 民 の つ な が り、 弓 削 が い り、 広 が る 弓 削 校 区 の 地 域 つ く り	安 心 し て 年 を 重 ね ら れ る 優 し い ま ち	高 齢 者 ・ 障 が い 者 に 関 す る こ と	買い物・通院等について	①買い物の不便さ、灯油などの購入が重く高齢者には難しい ②買い物や病院通いのお手伝いボランティアに自家用車の相乗りができないか ③買い物支援で移動販売などがあったら良い ④高齢者がゴミ出しで困っている。 ⑤移動販売が町内に来てくれると助かる。 ⑥乗り合いタクシーの利便性を向上し、利用しやすくしてはどうか ⑦買い物するにも店が近くにないので困る	①移動販売車の回数を増やし定期的に行う販売システムの構築 ②灯油の移動販売が店頭より割高のため業者と交渉 ③光の森までの乗り合いタクシーを実施 ④買い物や病院に行くときに相乗りして連れて行く ⑤外出支援のための講習会に参加し資格を取得 ⑥高齢者がゴミ出しで困っている。	①移動販売や配達ができる業者と提携を図っていく。 ②買い物や病院への移送支援についての検討会議を作る。
			認知症問題について	①認知症の方が徘徊された時などの初動体制を作ってみてはどうか ②独居老人への定期的な声かけ ③認知症の方の声掛けなど見守り体制をつくる。 ④老々夫婦の方の生活見守り	①認知症模擬訓練を実施 ②隣保班など近所で老夫婦などの見守り ③認知症を早めに発見できる研修会の開催 ④認知症家族からの情報を把握し、徘徊時に素早く対応できる体制を作る。 ⑤ささえりあ武蔵塚との連携	①認知症への理解を深めるために学習会を計画する。 ②認知症模擬訓練を実施する。
			つどいの場について	①各町内のサロン参加者が固定化、催しものを企画しても参加されない ②各町内でサロン活動は行われているが、参加者が少ない。	①サロンで多くの方が入れる建物が必要 ②障がい者相談支援事業所アシストとの連携	①ふれあいいきいきサロンが充実し魅力あるサロンになるよう運営者間で情報共有を行い支援を行う。 ②障がい者サポーター講習の検討
	み ん な で、 子 ど も た ち を 見 守 り 育 て る ま ち	子 ど も 子 育 て に 関 す る こ と	子ども食堂について	①子ども食堂を立ち上げてみてはどうか ②各町内で子ども食堂を実施したり、発展させてはどうか	①子ども食堂は、地域内で連携をとって食材の提供・人材確保 ②子ども食堂で高齢者との交流を実施	①子ども食堂の推進を図り、親子で参加できる環境づくりを行う。
			子ども見守りにについて	①子育てネットワークについて	①子育てネットワークの発展や活動の更なる理解や周知 ②共働き家庭の子どもの対応を各町内で考える	①各種団体と連携し、世代間交流を図っていく。
	世 代 を こ え て 支 え あ う の ま ち	暮 ら し に 関 す る こ と	校区社協組織の活性化・体制強化	①校区におけるリーダ的人材育成と活動場の提供 ②自治会、民生児童委員の連携や福祉協力員の設置 ③定年後の地域活動への参加促進	①校区社協組織の活性化・体制強化をするべき ②活動予算をいかに確保するかが必要 ③校区住民全体に行き渡るツールを考える。 ④社協役員のなり手不足	①校区社協のPRを地域住民に行い、校区社協理解を得る。 ②若い世代の参加協力を促していく。
			その他	①気軽に頼めるボランティアを増やしてほしい ②災害時要援護者の登録呼びかけ	①ちょこボラ体制を確立して活動ができるようにする。 ②ちょこボラを町内単位で組織してみる。 ③福祉協力員制度を実施して、各町内に広げてみる。 ④全町内に心のデュエットを広げ、実施してみる。 ⑤災害時に消防団、婦人会、民生委員などの連携を強化する。 ⑥災害要援護者登録の申込書を配布してみる。	①ちょこボラ体制を確立するため、福祉協力員の養成研修等を開催していく。 ②心のデュエットを各町内に広げていく。 ③防災講演会などを開催し、関係機関・団体等の連携を強化していく。